

し左根治的腎摘出術を施行。2010年5月、経過観察中の腹部CTで臍頭部にhypervascularな腫瘍が認められた。腎細胞癌臍転移を疑い、外科にて腫瘍切除術が施行された。病理組織はclear cell carcinomaであった。腎細胞癌臍転移は転移症例中2%程度と比較的稀であり、切除例の報告はまだ少ない。若干の文献的考察を加えこれを報告する。

5. インターフェロン α 投与中に増悪傾向を認めたが休止後に自然消退を認めた左腎細胞癌の1例

宮澤 慶行, 上井 崇智, 登丸 行雄

(桐生厚生総合病院 泌尿器科)

症例は74歳女性。近医でのCTで左腎細胞癌、肺転移を疑われ、紹介受診となった。診断は左腎細胞癌cT1bN0M1 stage IV (肺転移)、左腎摘除術を施行した。その後IFN α 療法 (スミフェロン300万単位週5回) を9ヶ月間投与した。効果判定のCTでPDの判定。患者、家族との相談で対症療法を行っていくこととなった。その後経過観察中に転移巣の著明な縮小、消失を認め、現在も無治療で経過をみている。上記症例について、若干の文献的考察を含め報告する。

〈セッションII〉

座長：新井 誠二 (群馬県立がんセンター)

6. ステロイドパルス療法の奏効した被嚢性腹膜硬化症 (EPS) の一例

栗原 聡太, 古谷 洋介, 中山 紘史

宮尾 武士, 富田 健介, 加藤 春雄

周東 孝浩, 村松 和道, 宮久保真意

森川 泰如, 岡本 亘平, 野村 昌史

小池 秀和, 松井 博, 柴田 康博

羽鳥 基明, 伊藤 一人, 鈴木 和浩

(群馬大院・医・泌尿器科学)

69歳男性。慢性腎不全でH19年4月より腹膜透析を導入。H22年2月末より食欲不振、夜間の嘔気・嘔吐など腸閉塞症状あり、3月8日に当科入院。腹部単純CTで蕪玉状に一塊となった腸管を確認。腸閉塞症状と画像所見から被嚢性腹膜硬化症と診断し、同日よりステロイドパルス療法 (mPSL 1000mg/日) を開始。PDを中止しHD導入。第14病日には消化器症状は改善、腹部XP上も改善傾向であり流動食を開始。第16病日、CT上腸管の集中は改善。第25病日には固形食も摂取できるようになり、第50病日に軽快退院。EPSはPD患者の1~3%に合併するとされ、死亡率は30%を超える重篤な病態である。治療は中心静脈栄養、免疫抑制、外科的処置、または

それらの組み合わせによりなされる。腸閉塞症状が強い場合には外科的に腸間膜癒着剝離術が選択されることが多いが、本症例ではステロイドパルス療法が奏功し食事摂取可能となった。

7. フルニエ壊疽が疑われた尿閉症例

村松 和道, 黒川 公平 (国立病院機構

高崎総合医療センター 泌尿器科)

山田 達也 (同 外科)

根岸 幾 (同 診療放射線科)

松尾 弥枝, 間仁田 守 (同 循環器科)

症例は89歳男性。既往歴に糖尿病、肺気腫がある。平成22年5月労作時の息切れあり近医より当院循環器内科紹介受診。CT撮影にて両側水腎、膀胱の拡大を認めたため尿閉疑いにて当科紹介となった。膀胱鏡施行時陰囊および肛門左側の発赤を認め、CTにて陰茎・陰囊から肛門左側におよぶ皮下気腫を認めた。フルニエ壊疽が疑われたため緊急切開ドレナージ施行。直後に陰囊の発赤は改善した。連日創洗浄しながら、段階的にドレーンを抜去した。抗生剤はMEPM 0.5g \times 3回/日、CLDM 600mg/日を9日間施行。現在適宜デブリードマンを施行してしながら、連日創洗浄を行っているが経過は順調である。フルニエ壊疽は会陰部の壊死性筋膜炎であり、診断が遅れると死亡率は7.5%~29%程度と低くはない。本症例では、症状が現れる前に診断し治療が開始されたため、良好な経過をたどったと考えた。

8. 両鼠径部の腫脹から発見された転移性傍精索腫瘍の一例

中山 紘史, 加藤 春雄, 森川 泰如

栗原 聡太, 宮尾 武士, 周東 孝浩

古谷 洋介, 宮久保真意, 岡本 亘平

野村 昌史, 小池 秀和, 松井 博

柴田 康博, 羽鳥 基明, 伊藤 一人

鈴木 和浩 (群馬大院・医・泌尿器科学)

症例は69歳、男性。2009年2月頃より陰部の硬結と鼠径部腫脹を自覚し、近医受診するも経過観察となった。2010年3月に食思不振のため当院内科入院となり、両鼠径部腫脹の増大認め当科紹介となった。CT、MRIにて両側精索に接する腫瘍を認めたが、悪性を示唆する所見に乏しく診断は困難であった。患者と相談の上、開放生検または高位精巣摘除の方針となり左傍精索腫瘍に対して手術施行した。術中迅速病理診断にて悪性を疑う所見はなく、精索との剝離も可能であったため腫瘍のみを摘除した。後日、摘出標本の病理診断が確定し転移性の低分化型腺癌の診断であった。下部消化管内視鏡再検しS状結腸から低分化腺癌を認め、S状結腸癌の傍精索転移と